3 支部活動報告

阪神南支部

阪神南支部では、芦屋市・西宮市・尼崎市の７か所での拠点活動と、定期的に活動をしている出前隊の他、西宮神社こども祭り・芦屋健康福祉フェア・西宮市健康フェア・尼崎市民祭り・西宮浜さくら祭・西宮看護フェスタなどのイベントに参加し、活動しています。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、ほとんどの活動が中止になりましたが、感染防止対策を徹底して開催している拠点やオンラインでの活動を行なっている拠点もあります。その中から一部の活動の状況を報告させていただきます。

市営南芦屋浜団地（健康相談）

月に１度、市営住宅の集会所で健康相談やミニ健康講座、地域の理学療法士による体操など行っています。

この地域は、震災復興住宅として 20 数年前に建築された公営住宅が 12 棟あり、その周囲に子育て世代が多く住むマンションや戸建て住宅が立ち並びましたが、年齢層や生活を取り巻く環境の違いから、ほとんど交流はありません。公営住宅に震災後入居された方々は、高齢となり独居の方も多く、入れ替わりも少なくありません。「まちの保健室」の参加者も少しずつメンバーが変わり、徐々に減少傾向にありました。そこで、参加者が増えるように地域包括支援センターと協働し、住民の健康意識やニーズを把握することが大切と考え、活動方法を検討中でした。そんな中、今年度は新型コロナウイルス感染拡大による、緊急事態宣言等により、「まちの保健室」は思うような活動ができませんでした。また、コロナ禍での外出自粛、楽しみや居場所がなくなり、身体機能や認知機能が低下した高齢者が多くみられました。こんな時だからこそ、住民が健康に関する悩みや不安を抱え込まず、気軽に相談できる場所が必要と考えました。来年度は、地域包括支援センターはじめ多職種と連携を取り、地域住民のニーズに見合った方法で、健康増進や健康教育を行う場を提供したいと思います。

芦屋　カンガルークラブ（子育て支援）

今年はコロナ禍でオンラインでの「まちの保健室」の開催を試みました。事前に相談内容を聞き、一緒に考え、母親同志が関わる時間を大切にしました。参加された方に、育児の状況や工夫を報告してもらい、情報交換の場として、また自宅で孤立することのないよう、安心できる場所づくりができるように関わりました。

自粛期間が終了してからは、予約制とし、少人数で開催しました。消毒や換気など環境面の調整、おもちゃの選択や遊びの構成、各自マットを持参しパーソナルスペースの確保や接触の配慮も考えました。大きな絵本を使っての読み聞かせでは、子供の目の輝きや笑顔、興奮する様子、それを見つめる母親の表情から、外的刺激や人と関わることの重要性、気分転換できる場所の提供など、私たちサポート側の責任を改めて痛感しました。１歳未満が対象ですが、卒業時の挨拶で育児の楽しさや悩み、苦しさを乗り越えて成長でき、この場所があってよかったと言われます。その言葉が後輩の心強いエールにもなり、素敵な空間となっています。

新型コロナウイルス感染拡大の中で、模索しながらの再開でしたが、参加者の感染防止の意識も高く、不安の声も聞かれませんでした。ルールを守り安全に運営していくことや子育て広場の重要性を感じました。

今後も安全はもとより、未来を育む子供やその家族のサポーターとして、新しい環境やニーズにあった場面を提供できたらと考えています。

阪神南支部では、その他「大隈病院（ふれあい喫茶）」・「みやちゃん健康相談室（令和２年 11 月閉設）」も活動していただき、地域の皆様に喜んでいただけました。